新　旧　対　照　表

【　森林整備保全事業ＩＣＴ活用工事（土工1,000m3未満）積算要領　】

改　正　後

１．　【　省　略　】

２．機械経費

２－１　機械経費

【　省　略　】

２－２　ＩＣＴ建設機械経費加算額

２－２－１　損料加算額

ＩＣＴ建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、２－１機械経費のうち損料にて計上するＩＣＴ建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

（１）　【　省　略　】

２－３　【　省　略　】

３．３次元起工測量・３次元設計データの作成費用

３次元起工測量・３次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。【削除】

４．～５．　【　省　略　】

【参考】

１．施工歩掛

（１）～（２）　【　省　略　】

１－１～１－２　【　省　略　】

１－３　法面整形工（1,000m3未満）

（１）日当たり施工量

法面整形工（ＩＣＴ施工）における日当り施工量は，次表を標準とする。

表1.5　日当り施工量　(m2/日)

整形箇所	作業区分	土質	標準施工量
盛土部	削り取り整形	礫質土，砂及び砂質土，粘性土	164
	築立（土羽）整形	礫質土，砂及び砂質土，粘性土	104
切土部	切土整形	礫質土，砂及び砂質土，粘性土	104
		軟岩（Ｉ）	89

現　　行

１．　【　省　略　】

２．機械経費

２－１　機械経費

【　省　略　】

２－２　ＩＣＴ建設機械経費加算額

２－２－１　損料加算額

ＩＣＴ建設機械経費損料加算額は、【追記】地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、２－１機械経費のうち損料にて計上するＩＣＴ建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

（１）　【　省　略　】

２－３　【　省　略　】

３．【追記】３次元設計データの作成費用

【追記】３次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、３次元起工測量を実施した場合は、３次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

４．～５．　【　省　略　】

【参考】

１．施工歩掛

（１）～（２）　【　省　略　】

１－１～１－２　【　省　略　】

【　新　設　】

備　考

新　旧　対　照　表

【　森林整備保全事業ＩＣＴ活用工事（土工1,000m3未満）積算要領　】

改　正　後	現　行	備　考

（２）施工歩掛

１）盛土法面整形工

①削取り整形

本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削り取りながら整形する場合に適用する。

表1.6　削り取り整形歩掛　（100m2当り）

名　称	規　格	単　位	土　質 礫質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.24
普通作業員		〃	0.36
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.61

（注）１．バックホウ（法面バケット付）賃料は，バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。
２．本歩掛には，残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。

②築立（土羽）整形

本歩掛は、土羽土部分の敷き均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。

表1.7　築立(土羽)整形歩掛　（100m2当り）

名　称	規　格	単　位	土　質 礫質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.44
普通作業員		〃	0.47
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96

（注）１．本歩掛には，土羽土の搬入等は含まない。
２．本歩掛には，土羽土の現場内小運搬（20m程度）及び残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。
３．バックホウ（法面バケット付）賃料は，バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

２）切土法面整形工

①切土法面整形

本歩掛は、機械による切土法面整形に適用する。

新　旧　対　照　表

【　森林整備保全事業ＩＣＴ活用工事（土工1,000m3未満）積算要領　】

改　正　後

表1.8　切土法面整形歩掛　（100m2当り）

名　称	規　格	単　位	土　質	
			礫質土 砂及び砂質土 粘性土	軟岩（Ｉ）
土木一般世話役		人	0.49	0.65
普通作業員		〃	0.40	0.56
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96	1.12

（注）１．本歩掛には，残土の積込み，運搬，並びに法面保護は含まない。
２．片切掘削（人力併用機械掘削）の領域については，全面積に適用する。
３．一度法面整形を完成した後，局部的に浸食・崩壊を生じた場合，保護工を施工する前に行う整形作業（二次整形）を必要とする場合は，人力施工とする。
４．バックホウ（法面バケット付）賃料は，バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

２．単価表

（１）オープンカット（バックホウ掘削）100m3当り単価表

名　称	規　格	単位	数 量	摘 要
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	日	100／D	表1.2
諸雑費		式	1	（まるめ）
計				

（注）　Ｄ：日当り施工量

（２）片切掘削（人力併用機械掘削）　100m3 当り単価表

名　称	規　格	単位	数 量	摘 要
普通作業員				表1.4
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	日	100／D	表1.3
諸雑費		式	1	（まるめ）
計				

（注）　Ｄ：日当り施工量

現　行

２．単価表

（１）オープンカット（バックホウ掘削）100m3当り単価表

名　称	規　格	単位	数 量	摘 要
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	日	100／D	表1.2
【追加】		【追加】	【追加】	【追加】
計				

（注）　Ｄ：日当り施工量

（２）片切掘削（人力併用機械掘削）　100m3 当り単価表

名　称	規　格	単位	数 量	摘 要
普通作業員				表1.4
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	日	100／D	表1.3
【追加】		【追加】	【追加】	【追加】
計				

（注）　Ｄ：日当り施工量

備　考

新　旧　対　照　表

【　森林整備保全事業ＩＣＴ活用工事（土工1,000m3未満）積算要領　】

改　正　後

（３）削取り又は築立（土羽）及び切土整形　100m2当り単価表

名　称	規　格	単　位	数　量	摘　要
土木一般世話役		人		表1.6、表1.7、表1.8
普通作業員		〃		〃
バックホウ（クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日		表1.5 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

（４）機械運転単価表

機　械　名	規　格	適用単価表	指　定　事　項
バックホウ（クローラ型）（オープンカット）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	2．単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量　→48 機械損料数量→1.33
バックホウ（クローラ型）（片切掘削）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	2．単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量　→48 機械損料数量→1.33
バックホウ（クローラ型）（法面整形）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値） 山積0.45m3（平積0.35m3）	2．単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量　→48 機械損料数量→1.33

（５）運転１日当たり単価表

名　称	規　格	単　位	数　量	摘　要
運転手（特殊）		人		
燃料費		リットル		
機械損料		供用日		
ＩＣＴ建設機械経費加算額		〃		
計				

現　行

【　新　設　】

（３）機械運転単価表

機　械　名	規　格	適用単価表	指　定　事　項
バックホウ（クローラ型）（オープンカット）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値）山積0.45m3（平積0.35m3）	2．単価表 (4)	運転労務数量→1.00 燃料消費量　→48 機械損料数量→1.33
バックホウ（クローラ型）（片切掘削）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第３次基準値）山積0.45m3（平積0.35m3）	2．単価表 (4)	運転労務数量→1.00 燃料消費量　→48 機械損料数量→1.33
【　新　設　】	【　新　設　】	【新設】	【　新　設　】

（４）運転１日当たり単価表

名　称	規　格	単　位	数　量	摘　要
運転手（特殊）		人		
燃料費		リットル		
機械損料		供用日		
ＩＣＴ建設機械経費加算額		〃		
計				

備　考